

■都市課題(ビジョン)

人口減少下でも市民が持続的に多様なサービスを楽しむことができるよう、防災・福祉・交通など各分野でデジタル技術とデータ利活用を進め、利便性と地域の豊かさを両立する都市を目指す

■解決方策

都市OSなどの多様なデータと計画情報を連携し、一元管理・可視化・分析できる基盤を整備して施策を高度化するとともに、分野横断のデータ利活用を進める仕組みを構築する。

■KPI

- サービスの必要性 70%
- サービス上に重ね合わせらるレイヤー数 5件
- AI判定結果による作業効率化割合 15%

■実証実験の概要・目的

都市OSに蓄積されたハザードマップ等の静的データやセンサによるリアルタイムデータと、まちづくり計画情報を統合し、分野横断で一元的かつ複層的に可視化・分析できる環境を構築する実証を行った。これにより、自治体の計画立案や施策検討の高度化、担当者の業務効率化を図るとともに、生成AI活用の有効性を多面的かつ継続的に検証し、実務への応用可能性を高めることを目的とする。

■実証実験の内容

【職員向け】

地図上の複数レイヤーを都市OSと連携して一元的に可視化し、重ね合わせて表示する仕組みを検証した。これにより、まちづくり計画等の検討に必要な視点を得られるかを確認した。また、任意エリアを指定して生成AIに問いかける機能を試行し、新たな気づきや分析視点の獲得可能性を評価した。

◆ 選択レイヤー
・ 街路樹データ
・ 令和7年度クマ出没情報

◆ 質問
クマの出没があった地域で、クマが好む街路樹を教えてください。

◆ 回答例
この地域では、クマの出没が確認されており、街路樹にはクマを引き寄せる可能性のある樹種が含まれています。
特に果実や木の実をつける樹種、例えばヤマザクラ、ヤマボウシ、ガズミなどがクマを誘引する可能性があります。
また、ミスナラやフナなどの堅果類もクマの好物です。
これらの樹種の管理や配置に注意が必要かもしれません。
クマの出没対策として、果実の早期収穫や落果の迅速な清掃も検討に値するかもしれません。

【市民向け】

市民生活の向上につながるサービスを目指し、
①保育施設の空き状況 ②避難所 ③クマ出没情報の生活密着データを地図上に統合表示し、情報の有用性、画面の見やすさ、直感的操作性、日常利用意向を中心に検証した。

■実証実験で得られた成果・知見

【職員向け】

実証では、複数レイヤーを活用した検討の有効性が確認され、道路補修の優先度付けなど実務に踏み込んだ高度分析への期待も示された。一方、ナレッジ不足やレイヤー選択漏れによりAIが回答できない場面が発生し、行政業務の広範さゆえに対象を広げすぎるとデータ整備やチューニング工数が増大し、使い勝手が低下する懸念も浮き彫りとなった。今後は、対象範囲の整理に加え、レイヤー自動選択や不足データ指摘など、現場で使いやすい仕組みの整備が求められる。

【市民向け】

市民からは、地図表示の分かりやすさや画面の見やすさ、直感的操作性が高く評価された。一方、日常利用のサービスとしては表示速度の改善が求められることが分かった。
また、保育所空き情報の更新日の明示や、クマ出没情報の通知など、実装可能性の高い具体的ニーズも把握できた。

■今後の予定

技術職員の不足やインフラ老朽化の進行を踏まえ、今後は専門性と判断負荷が大きい道路補修の優先度付けへのAI活用を重点的に検証する。道路維持管理は限られた人員で迅速な判断が求められる一方、現場対応や判断の平準化・迅速化といった効率化が強く求められている領域である。
必要データや適用場面を整理しつつ検証を進め、中長期的には劣化状況や周辺環境、災害リスクを踏まえた高度な判断支援を実現し、人材不足下でも行政サービスを維持できる体制を目指す。

